

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890100666
法人名	有限会社やわらぎ
事業所名	グループホームいくし
所在地	松山市生石町472
自己評価作成日	平成24年10月25日(木)

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

基本的な業務の流れは作っているが、利用者の「その時」を優先し、職員の気づきをモットーに柔軟な対応・支援ができるように心がけている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成24年11月22日

●隣接する小規模多機能事業所と合同で、3年振りに、夏祭りを開催された。近所のスーパー等にポスターを貼らせていただいたり、チラシを配る等して、地域の方に案内された。当日は、お寿司や焼きそば、かき氷等の屋台を出して、利用者も焼きそばに青のりや紅しょうがを添える等かかわられた。町内会長が子ども会に案内して下さったこともあり、70名ほどの地域の方の参加があったようだ。  
●遠くに住むお孫さん等が訪れた際には、ご本人と一緒に写真を撮り、居室に飾るようにされている。又、遠くに住むご家族に利用者ご本人の写真や「いくし便り」を送付されることもある。川柳がお好きな利用者がつくった作品を、職員が催し物に応募して、市内のデパートに展示された際には、ご本人と一緒に見に出かけられた。季刊誌「いくし便り」秋号には、100歳を迎えるお母様を想う、息子さんの寄稿文を載せられた。

### V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まれます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まれます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まれます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームいくし

(ユニット名) \_\_\_\_\_

記入者(管理者)

氏名

鶴居 博子

評価完了日

平成24年10月25日(木)

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p><b>(自己評価)</b></p> 理念に挙げ、運営推進会議などを通して、地域とのつながりを深めたいと努めているが、日常的な実践まではできていない。 <p><b>(外部評価)</b></p> 事業所は、昨年度、法人が移行されたが、「1、医療なしの介護、介護なしの医療はありえないとの考えのもと、入居者の心身のケアに努める。2、共同生活の中でお互いの生活歴を認め合い、自由に自己決定できる生活」という理念を継続して掲げておられ、法人理念とともに、共用空間に掲示されている。又、事業所では、「素直に感情が出せる生活」等、5項目の「方針」を決めておられ、管理者や職員は、理念や方針を振り返りながら、日々のケアをすすめておられる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p><b>(自己評価)</b></p> 町内会の人たちとの交流に努め、つながりを大切にしたい。 <p><b>(外部評価)</b></p> 隣接する小規模多機能事業所と合同で、3年振りに、夏祭りを開催された。近所のスーパー等にポスターを貼らせていただいたり、チラシを配る等して、地域の方に案内された。当日は、お寿司や焼きそば、かき氷等の屋台を出して、利用者も焼きそばに青のりや紅しょうがを添える等かわられた。町内会長が子ども会に案内して下さったこともあり、70名ほどの地域の方の参加があったようだ。秋祭りには、事業所前の駐車場に、こども神輿が来てくれて、利用者は見物された。系列事業所で月2回開かれる「喫茶店」には、地域の方も来られており、利用者も出かけて一緒に楽しんでいる。事業所は、町内会に加入しておられ、回覧板も回ってきており、管理者は、「系列事業所と協力しながら、今後さらに地域との交流に取り組んでいきたい」と話されていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p><b>(自己評価)</b></p> 運営推進会議を通して、認知症への理解や支援の方法を一緒に学ぶ機会を持っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p><b>(自己評価)</b> 定期的に運営推進会議を開催し、現状についてや活動内容を報告し、ご意見をいただいている。</p> <p><b>(外部評価)</b> 会議は、隣接の小規模多機能と合同で開催され、市の担当者や地域包括支援センターの担当者、町内会長、民生委員と、毎回、複数のご家族が参加されて、意見交換を行なっておられる。毎回テーマを決めて、ご家族に案内されており、「外部評価」をテーマに会議を開催された際には、評価機関の担当者も出席して、参加者に評価の意義等について説明を行った。「避難訓練の報告」のテーマ時には、参加者から、「サイレンを付けると非常時に周りに分かりやすいのでは?」「防煙マスクの使用はできないか」等の意見をいただいた。お花見や夏祭りに合わせて会議とされて、利用者の様子を見ていただくこともある。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p><b>(自己評価)</b> 日ごろより、何かあれば市町村担当者に連絡を取り意見をうかがっている。また、運営推進会議や実地指導時を通して協力関係を築くように努めている。</p> <p><b>(外部評価)</b> 運営推進会議時に、市の担当者の方から介護保険法改正で変更となった事項を説明していただいた。又、「地域包括支援センター」をテーマとして会議を行なった際には、センターの方から目的や役割等を説明していただいた。市社協からの紹介で、管理者は、他事業所の運営推進会議に参加されている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p><b>(自己評価)</b> 身体拘束は行っていないが、勉強会などで言葉による拘束についてなど「拘束とは」について学び、身につくように努めている。</p> <p><b>(外部評価)</b> 事業所は、建物の2階部分に位置しており、日中は、事業所の出入口は施錠せず、職員は利用者を見守るようにされている。利用者が気ままに出て行かれた場合は、職員が後から付いて歩き、タイミングをみて声をかけ、一緒に事業所に戻れるよう支援されている。職員は、法人や事業所の勉強会時に、身体拘束について学んでおられ、「スピーチロック」についても理解をされているが、職員の気になる言葉かけ等がみられた時には、その都度、管理者が職員と話し合うようにされている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<p>(自己評価)</p> <p>年に1回は勉強会を設け、互いに注意しあえる雰囲気の中で虐待防止に努めている。</p>	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>後見制度も利用していたが、全職員が理解を深め、活用できるようにはなっていない。勉強会にて理解を深めるように努めている。</p>	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<p>(自己評価)</p> <p>契約時、内容を確認しあい、理解と了承を得るように努めている。</p>	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<p>(自己評価)</p> <p>日々の面会時などに意見や要望を聴く機会を持ちスムーズな対応ができるように努めている。また運営推進会議などでも第三者をまじえて色々な意見を聴く機会を設けている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>ご家族は、運営推進会議や行事、食事介助等で、来訪される機会も多く、その度に、利用者の普段の様子を報告し、意見や要望をうかがうようにされている。季刊紙「いくし便り」で、日々の生活や行事の様子を報告し、新しい利用者や新職員は、写真入りで紹介されている。又、運営推進会議の内容も載せて、ご家族に報告されている。ご家族に、法人の勉強会を案内され、参加された方もいる。年1回実施されている「家族アンケート」や「家族会」は、今年度は都合で行えなかったようだ。毎年、利用者、ご家族、職員で「忘年会」を行なっておられ、今年も開催を検討されていた。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			ミーティングなどで意見や提案を聞く機会を設け反映できるように努めている。	
			(外部評価)	
			毎年、自己評価は、職員一人ひとりが取り組み、管理者がまとめておられ、職員は、「自分自身のケアを振り返る機会になった」と話されていた。職員同士の連携がよく、外出や行事等の発案・企画等、職員で話し合い、管理者に相談しながら決めておられる。事業所の季刊誌作成は、職員が順番に担当されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			いろいろ難しい面はあるが、休憩時間を確保している。また、有給休暇を好きなきに取れる環境づくりに努めている。	
			(自己評価)	
			法人内外の研修を受ける機会の確保、環境ができています。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			法人内外の研修を受ける機会の確保、環境ができています。	
			(自己評価)	
			同業者と合同研修会を開催したり、新人職員のための相互研修に参加しサービスの質の向上に努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価)	
			同業者と合同研修会を開催したり、新人職員のための相互研修に参加しサービスの質の向上に努めている。	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			本人の不安、要望を聴き把握し、安心して生活ができるように努め取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ホームに対する疑問や不安など気になることを率直に話せる関係作りに努め、互いに良い関係が築けるように心がけている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 上記より得た『その時』を職員間で情報を共有し、ケアプランに反映し、必要としている支援対応に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 互いに助け合い生活をしているという関係を築くように努めているが、重度の利用者さんには安心して落ち着いて生活できるように支援している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族との程よい関係を築きながら、お互い協力して、利用者本人を支えていけるように心掛けている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ご家族、親戚の方、知人の方など、好きなときに面会に来られている。また、慣れ親しんだ場所へ出かけたりできるように支援に努めている。 (外部評価) 遠くに住むお孫さん等が訪れた際には、ご本人と一緒に写真の撮り、居室に飾るようにされている。又、遠くに住むご家族に、利用者ご本人の写真や「いくし便り」を送付されることもある。川柳がお好きな利用者がつくった作品を、職員が催し物に応募して、市内のデパートに展示された際には、ご本人と一緒に見に出かけられた。季刊誌「いくし便り」秋号には、100歳を迎えるお母様を想う、息子さんの寄稿文を載せられた。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者の重度化に伴い積極的な関わり合いは少ないが、利用者同士の関係を観ながら、食卓の席を配置し、その中で互いに心遣いや関わり合いが持てるように努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 状況に応じて相談や支援ができるように努めている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 介護記録や家族の話を通して、本人の意向や希望の把握に努め、ケアプランに反映できるように取り組んでいる。 (外部評価) 事業所は、センター方式のアセスメント表を用いて、利用者の思いや希望等の把握に取り組まれている。日々の介護記録に、ご本人の「訴え」や「申し出」、職員の「声かけ」や「対応」等、見出しを付けて記入されている。利用者には、不安定な状態がみられると、「24時間生活変化シート」を1週間記録し、原因を探りながら支援につなげておられる。職員は、「重度の方でも、表情やしぐさから、その時の気持ちを感じることができる」と話しておられた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 機会あるごとに本人やご家族から話を伺い出来る限り把握できるように努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 心身の状態を介護記録に留め、現状の把握に努めている。また、職員が気づきの力をつけるように努めている。しかし、重度の方が多いこともあって、有する力を把握しながら発揮する機会を作れていないことが課題としてある。	



自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 毎月の全員参加のミーティングで話し合い、現状に即した介護計画の作成に努めているが、家族、本人の積極的な関わり合いは少ない。</p> <p>(外部評価) 介護計画は、担当者を中心に職員全員で話し合い、作成されている。毎月、モニタリングを行い、3ヶ月毎に見直しをされている。毎月のモニタリングの記録もご家族に確認してもらい、意見をうかがっておられる。居室で過ごす時間が長い利用者には、居間でみなと過ごす時間が作れるよう、計画に盛り込まれていた。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 個々の記録はその時の状況に応じて、記載事項を増やしたり、個別の情報シートを使って、職員が情報を共有しやすいように取り組み、介護計画の見直しに活かせるように努めているが、職員全員までには至っていない。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 状態、状況に応じて、グループの事業所と連携を取り、柔軟に対応出来るように努めている。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 支援に努めているが、現状において、ご利用者の重度化もあって積極的に地域資源と協働できていない。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) その時に応じて、適切な医療を受けられるように取り組んでいる。	
			(外部評価) ご本人・ご家族の希望でほとんどの利用者が、同じ建物の1階にある協力医療機関をかかりつけ医にされており、受診時には職員が付き添っておられる。又、状態によっては往診もある。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 医療連携機関の看護師に不安な事柄について、率直に質問、相談し適切な受診につなげている。また、看護師免許を有している介護職員にも日常的に相談している。	
			(外部評価)	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 医療機関と連携し、安心安全に暮らせるように努めている。	
			(外部評価)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 契約時に看取りの方針を説明し、その都度の状態、状況の変化にに応じて、ご家族や主治医と連携を取りながら方針の共有化に努めている。	
			(外部評価) 利用契約時には、事業所の「看取り介護の方針」に沿って説明され、ご家族に終末期のあり方について希望をお聞きしている。現在は、全員が、「最期まで事業所で過ごす」ことを希望されているようだ。10月に看取りを支援された事例がある。ご家族は、春頃から週1回、食事介助に来られ、最期の1ヶ月ほどは、毎日のように訪問されて「何もせず、自然に」というご家族の意向に沿って、主治医や職員、ご家族が連携して看取られた。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 救命救急の研修を受けたり、事業所内で勉強会を開き、適切な対応が出来るように取り組んでいる。さらに全員が身につくように定期的な訓練に努めていく。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回の避難訓練を実地し、特に夜間を想定した訓練も行なっている。防災士でもある町内会長の参加も得て率直な意見を伺っている。	
			(外部評価) 地域の防災訓練に、職員が毎年参加されている。事業所では、6月に消防署の協力を得て、夜間の火災を想定した避難訓練を実施された。ダミー人形を使用し重度の利用者を想定して、毛布を使ってベッドから防火扉の前まで避難させる訓練を行われた。消防署の方からは、「避難時は、階段を使って、1階に下りてください」とアドバイスがあった。11月には、日中の地震を想定し、避難訓練を実施された。夜勤者は、「点検簿」に沿って、「終業時の火気の確認」等をチェックされている。避難訓練には、防災士でもある町内会長にも参加していただき、管理者は、「今後、運営推進会議等を通じて、地域の方と災害時の協力関係を作っていきたい」と話しておられた。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 心がけているが、業務に追われてるときなど大声が出てくることもある。なじみの関係が深くなると、第三者にはぞんざいな言葉遣いと取られるような話し方をすることもみられる。より一層の気持ちのいい対応ができるように努める。	
			(外部評価) 管理者は、日頃から職員に、「声の大きさやトーンにも気を付ける」よう、話しておられる。職員は、日常的にエプロンの後ろのひもを利用者に結んでもらう等して、お礼や感謝の言葉を伝えるようにされている。重度の利用者は、体調を考慮しながら、ベランダに出る等、外気にふれる機会を作っておられる。	管理者は、「利用者を尊重した声かけや対応の仕方を、職員は頭では理解しており、さらに、全職員がしっかりと身につけるまで話し合い、利用者本位の情のある言葉かけや対応ができる事業所を目指したい」と話されていた。利用者への言葉かけや対応については、利用者の立場に立って、職員個々が自ら気付くような機会を作り、さらなる事業所のケアの質向上につなげていかれてほしい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 出来る限り、本人の思いを聴き、自分で決められるよう分かりやすく説明するなど支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 自己決定が可能な方には意向を尊重しながら出来る限り支援している。自分の意向を伝えにくい方には表情や様子などから察し支援できるように努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) その時のご利用者の状況に応じて支援できるように取り組んでいるが、不十分な面も見られるので徹底できるように努める。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) その時、その時のご利用者の状態に応じて支援に努めるようにしているが、食事を一緒に作って楽しめる方が少ない現状下では個々に合わせた形態で食事が出来るように支度を整え、少しでも美味しく安全に食事をしていただけるようにしている。	
			(外部評価) 業者から決まった献立で食材が届き、法人の厨房で調理されている。届いた食事は、事業所の台所で、利用者個々の状態に合わせて、ミキサー食のトロミ加減等にも配慮して調理しておられる。利用者から「お寿司が食べたい」等、希望があった場合は、厨房を通して業者に希望が伝わるようになっている。時には、利用者と一緒におやつにホットケーキを焼いたり、職員の発案で梅干しや干し柿と一緒に作ったりされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個々に合わせた水分量や食事量を把握し、支援に努めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 個々の状態に応じて対応し、口腔内の清潔が保てるように努めている。以前より実践出来るようになってきた。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	
				個々の排泄のリズムやできる力を観ながら、可能な限りトイレで排泄できるよう努めている。
			(外部評価)	
				重度でおむつを使用されている利用者も数名おられ、夜間は、ゆっくり休んでいただけるように、交換回数を少なめにし、ご本人の不快感も考慮してオムツ選びをされている。トイレの便器は、後ろに背もたれがあり、前には、前傾姿勢が安全にとれるように、可動式のバーを整備されている。又、トイレの扉までの動線に沿って、手すりを設置されている。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)	
				飲食物の工夫や下剤の調整など個々に応じた予防に取り組んでいる。
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	
				出来る限り希望に添った対応が出来るように努めているが、その時々のご利用者の状態や人員などの都合で出来ない面がある。
			(外部評価)	
				利用者個々に、週2～3回は、入浴できるように支援されている。重度の利用者も二人介助で浴槽で温まれるよう支援されているが、「危険が予想される場合」は、足浴とシャワーで対応されている。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)	
				一人一人の生活習慣や日々の状況に応じて休息されている。また、室温や環境を整え安眠できるよう支援している。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個々の服用している薬の情報シートを介護記録に挟み、必要に応じて各職員が確認し対応できるように努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個々の状態に応じて、日々の中で少しでも楽しみが持てるように、またご家族の援助もいただきながら外出など気分転換できるように努めている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) その時々、個々の状態に合わせて、行事を企画して出かける楽しみが持てるように取り組んでいる。希望があれば、可能な限り個別に添えるようにご家族と協力しながら支援に努めている。	
			(外部評価) 計画を立てて、石手寺や道後、砥部動物園等に出かけておられる。外出行事時には、参加される利用者のご家族にも案内を出して、ほとんどのご家族と一緒に外かけておられる。外出に気が乗らない利用者もおられるが、お花が好きな利用者の方には、「～に行くと○○のお花が咲いているよ」等、「その方が興味を持ち、出かけたくなるような声かけ」に努められたり、外出することを当日に伝えて、その気持ちになった時等、タイミングを大切に外出できるよう支援されている。利用者から「お菓子や洋服を買いたい」と、希望があると、近所のスーパー等に付き添われている。春頃までは、教会や図書館、喫茶店等、個別の希望で出かけておられたが、重度化がすすみ、出かけるのが難しくなっているようだ。管理者は、「その時々、利用者の状態によって支援していきたい」と話しておられた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 所持の希望がある場合、その方の力に応じて可能な限り支援できるように努めている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) その方の力に応じて工夫し、出来るように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 空間的余裕が少ないという面があるが、その中で居心地よく過ごせるよう工夫していく必要がある。</p> <p>(外部評価) 事業所は、建物の2階に位置している。玄関には、以前利用されていた方のご家族等から贈られた絵やパッチワークが飾られてあった。居間に観葉植物、ベランダには、彩りよい季節の花のプランターが並べられていた。食堂のテーブルは、2台あって、調査訪問時には、テーブルで新聞を読んでおられる利用者も見られた。居間や廊下の壁に沿って所々に椅子やソファを配置し、利用者によっては、お気に入りの場所もできている。脱衣場の出入り口にある段差には、赤や緑のテープを貼り、利用者に分かりやすいように工夫されている。調査訪問中には、居間で利用者と職員が一緒に歌っておられる歌声が聞こえてきた。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) ハード面での制約もあるが、共用空間でも、利用者それぞれの決まった場所があり落ち着いて過ごされている。廊下などにもソファやイスを配置し、程よい距離感が持てるように努めている。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) その方に応じて、居心地よい空間作りに努めている。</p> <p>(外部評価) 居室は、ベッドとクローゼットが備え付けになっている。日当たりの良い出窓に、ご家族が花の鉢植えを並べてくださり、日々、職員と一緒に水やり等の世話をしている方もいる。使い慣れたタンスやテレビを持ち込まれたり、冷蔵庫が置かれている居室もみられた。地震の際にタンスが倒れてこないように、タンスの前面を高めにしてある居室もみられた。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) トイレと分かるような表示や段差には目立つ色のテープを貼ったりと工夫に努めている。更に玄関周りの安全に工夫がある。</p>	